



スイスのEMグループが被災地取材に訪れ、交流しました

今回3回目となった来日取材～震災後も高い欧州での関心

東日本大震災以後のEMを活用した復興状況の取材を目的に来日されました。取材にあたったローランド・ブレンドル氏はスイスのEMグループ（支援事業へ多額寄付いただいている、EMアソシエーション）代表に就任される予定で、過去に東京で6年間法人経営に携わった日本通の方。同EMグループによる被災地訪問は今回3回目となります。EUにおいても東日本大震災以降の被災地への関心が未だ高いことから、今回の来日取材となりました。

仙台～福島を精力的に取材し、生産者と交流

最初に震災以降福島市で研究をつづけ6年目を迎えるEM研究機構の奥本秀一氏（研究部部長）よりEM処理によって放射性物質が減少した研究成果について説明されました。

1月30日、仙台の鈴木有機農園、鈴木英俊氏を取材。全国各地の支援のおかげで、いち早く高品質のEM栽培米生産活動が再開できたことについて語っていただきました。南相馬の瀧澤牧場、瀧澤昇司氏と馬場EM研究会、羽根田薫氏は原発事故以降、地域農業を支える上でEMを活用した放射能対策に取り組んだ経緯について説明しました。31日は田村市のEMの微笑（旧名コズモファーム）今泉 智氏、米倉金喜氏を訪問しました。今泉氏、米倉氏は、原発事故以降の放射線低減化事業の経緯のほか、生活を豊かにするため楽しみながらEMをふんだんに活用することが肝要と話されました。被災地でのEMグループの取り組みに熱心に取材にあたったローランド氏は「これからもU-ネットと協力してEM情報の発信に努めたい」と語り、今回の訪問で多くの情報を得たと大変満足されました。



鈴木有機農園「絆の井戸の記念碑」前でローランド氏と（左端）と鈴木氏（左から二人目）



「瀧澤牧場」で龍澤氏（中央）と。「ドローン」を活用しEM処理状況を観察。今年も安全な牧草生産と水稲栽培に意欲的に取り組む



「馬場EM研究会」羽根田薫氏ご夫妻（中央）と。今年同会はEM 燻炭団子の活用で安全・高品質なEM 栽培に取り組む南相馬の農地復興に取り組む



「EMの微笑」今泉氏（正面）・米倉氏（右）に取材。放射線量の軽減対策のほか、塩入EM 発酵液100倍希釈液をペット用トイレに活用するなど快適な生活空間づくりについて説明された